



2025 毛呂山町勢要覧 合併70周年記念

祝 合併70周年

晩秋の総合公園で開催された、毛呂山町合併70周年記念の花火大会。輝く未来への願いを込め打ち上げられた花火は、多くの人を魅了。歓喜とともに秋の夜空を美しく彩り、まさに永遠の繁栄を祝うがごとく。



Catalog Pocket

翻訳アプリ カタログポケット

このパンフレットの情報を多言語に翻訳できます。
The information in this brochure can be translated into multiple languages.



2025 毛呂山町勢要覧 合併70周年記念

発行日 ■ 令和7年2月

発行 ■ 毛呂山町

埼玉県入間郡毛呂山町中央2丁目1番地

TEL 049-295-2112 FAX 049-295-0771

URL <https://www.town.moroyama.saitama.jp>

企画・編集 ■ 毛呂山町秘書広報課

制作 ■ 朝日印刷工業株式会社



祝70周年

武者小路 知行
Musuyakoji Tomoyuki
一般財団法人新しき村
理事長

Profile

1947年生まれ。東京都出身。祖父は新しき村の創設者である武者小路実篤。現在は一般財団法人新しき村と調布市武者小路実篤記念館の理事長を務めている。趣味は天体観測とスポーツ鑑賞。

合併70周年おめでとうございます。

この70年の間に、町を取り巻く環境は大きく変化し発展してきたものと思います。

祖父 武者小路実篤が、この地に「新しき村」を創ったのは今から85年前のことです。この間、毛呂山町や近隣市町をはじめ、多くの支援者のご協力を頂きながら一步一步ではありますが確かな歩みを続けて参りました。

新しき村はこれからも毛呂山町とともに100年先を目指して頑張って参ります。



ホッとする故郷 もろやま

瀬戸 大也
Seto Daiya
水泳/競泳選手

Profile

1994年生まれ。泉野小学校、毛呂山中学校出身。13、15年世界選手権で400メートル個人メドレー2連覇、16年リオ五輪銅メダル、19年世界選手権で個人メドレー2冠を達成。東京五輪に続き、パリ五輪代表に選出。

毛呂山町合併70周年、誠に自然豊かな毛呂山町で、川日がワクワクの幼少期を送るの乗り子も経験し、貴重な毛呂山町で過ごして来毛呂山町の方に応援をしても何年経っても自分にとってきな故郷です。

おめでとうございます。私はやプールで遊び、虫を捕り、毎りました。ご縁があって流鏑馬数えきれないほどの楽しい時間した。そして、いつも沢山の毛呂山町に感謝しております。毛呂山町は一番ホッとする大好き

合併70周年
おめでとう！



未来へ夢と希望をつなぐ 人もまちも健康に

毛呂山町長 井上 健次

毛呂山町は、恵まれた自然と先人が築いた歴史、文化を持つ町です。ふるさと毛呂山に住むことを誇りに思い、郷土を愛する心を育み、さらに住みよいまちづくりを進めるために、未来への希望を抱き、輝いている姿をこの町勢要覧を通じて感じ取っていただければ嬉しく思います。

毛呂の地名が生まれたのは奈良時代といわれていますが、現在の毛呂山町となったのは昭和30年に川角村と合併してからです。本年で70年を迎えますが、先人たちの絶え間ない努力により、さまざまな発展を遂げてまいりました。

さらなる町の飛躍を願うものですが、今後のまちづくりとして「みんなでつくる 住みやすいまち 住み続けたいまち もろやま」を将来像として掲げ、町民の皆さまとの協働のまちづくりを主に、人もまちも健康でいられるよう、共に力を合わせ、夢と希望に満ちた毛呂山町となるよう精進してまいります。

960年以上の歴史を誇る流鏑馬、全国ではじめて産地化した桂木ゆず、武者小路実篤ゆかりの新しき村、そして埼玉医科大学病院がある医療と福祉の町。毛呂山町のすべてを後世に受け継ぐため、この町勢要覧をご覧いただき、町に対するさらなるご理解と協力をいただければ幸いです。

Toward the future: Linking dreams and hopes, improving people's and towns' health and wellness
Kenji Inoue, Mayor of Moroyama

Moroyama is a town with a rich natural environment, history, and culture built by its predecessors. In the 70 years since its merger, thanks to the tireless efforts of our predecessors, the town has achieved a great deal of development. We have set a goal of "Moroyama, a town that is easy to live in, created by everyone, and a town that people want to continue living in" as our future vision, and mainly through collaborative town development with the local residents, we work hard to make Moroyama a town full of dreams and hope so that health and wellness of both people and the town are maintained. Moroyama is a town that boasts a history of more than 960 years of yabusame (horseback archery), the first place in the country to produce Katsuraki yuzu citrus, and a new village associated with Mushakoji Saneatsu, and also a town of medicine and welfare with Saitama Medical University Hospital. In order to pass on everything about Moroyama Town to future generations, I hope that you will read this town profile to gain a better understanding of the town and offer your cooperation.

MOROYAMA 70th Anniversary

毛呂山町にゆかりがあり、さまざまな分野で活躍される皆さんから、毛呂山町合併70周年のお祝いメッセージを頂きました。

We have received congratulatory messages for the 70th anniversary of the Moroyama Town merger from people who are connected to Moroyama Town and active in various fields.

Profile

1959年生まれ。毛呂山中学校、県立越生高校出身。お笑いタレント、俳優、放送作家などマルチに活躍する。毛呂山町立図書館主催の「本の帯コピーライター賞」特別審査員も務める。

毛呂山70年

ダンカン Dankan お笑いタレント

毛呂山と書いて『ケロ山』と言われる。愛想笑いを浮かべつつ内心「クソー！いつか日本中、いや世界中に…おー！あのモロ山ファンタスティック!!」と言わせてやるぜと生きてきた。実家は今なお滝ノ入、我が家の墓は高福寺にある。もちろん生まれ育った。愛して止まない故郷に他ならないのだ。

ただ、あえて毛呂山に愛のムチを振り下ろすと、都心から中途半端に近い田舎ゆえから「挑戦心」が希薄なのだ。若き毛呂人よ、未来のケロ山をモロ山と呼ばせようぞ!!



毛呂山町マスコットキャラクター
もろ丸くん

もろ丸くんは、毛呂山町合併55周年を記念して、平成22年8月20日に誕生しました。名産の桂木ゆずと、伝統の流鏑馬がモチーフとなっており、様々なイベントに登場しながら毛呂山町のPRに励んでいます。

もろ丸くん

【町の鳥】めじろ



【町の花】きく



町章



【町の木】ゆず



目次

町長あいさつ	2
合併70周年に寄せて	3
瀬戸 大也	4
武者小路 知行	4
特集 MATOU 誇り	4
「伝統を繋ぐ」	4
MATOU 香り	6
「里山の恵み」	6
MATOU 彩り	8
「四季彩景」	8
毛呂山を歩こうMAP	10
ずっと輝く毛呂くらし	12
70年のあゆみ	14

特集「MATOU」

流鏑馬で奉納される矢の的を糸口に、毛呂山町の歴史、自然、文化をそれぞれ「語り」、「香り」、「彩り」を纏う「MATOU」と表現。由緒ある美しい町が纏う三つの魅力から毛呂山という地を紐解いていきます。



column

国指定史跡 鎌倉街道上道

毛呂山町歴史民俗資料館の西側には、南北に鎌倉街道が通っています。毛呂山町の鎌倉街道は、県内でも保存状態がとてよく、文化庁の「歴史の道百選」にも選ばれました。

鎌倉街道は、中世、政治の中心であった鎌倉と、関東諸国や信濃、越後、陸奥を結ぶ主要道路でした。「いざ鎌倉」と鎌倉幕府の御家人たちが街道を行き来するなかで、鎌倉街道沿いで数多くの合戦が行われました。

埼玉県を通る鎌倉街道は、中道と上道です。このうち、毛呂山町を通る鎌倉街道は「上道」で、坂戸市森戸から高麗川を渡り、毛呂山町市場・西大久保の境、川角・大類の境を抜けて、越辺川を渡り、鳩山町今宿へと続いています。

鎌倉街道は、軍事道路であり、物流の幹線道路でもありました。毛呂山町の鎌倉街道には、往時の面影をしのばせる古道の景観が残り、街道周辺からは、中世の寺院跡や宿場の跡などの遺跡も発見されています。

令和4年11月10日付け、毛呂山町の「鎌倉街道上道」が正式に国の史跡に指定されました。今もなお、はるか遠い歴史の物語を感じさせてくれる地です。



入曾 矢取りといって、乗り子の弓や鞭の管理などをするのが私の役割です。お殿様である乗りの側に付いて廻ります。10km以上の道のりを慣れない草鞋を履いて歩くのはなかなかしんどいものです。でも、今年も頑張りますよ！

櫻井 口取りは主に祭馬のお世話をしますね。本番では手綱を引いて誘導し、時には走る馬を止めることも。体力には自信がありますが、馬の力には敵いませんから10人がかりで制御します。

下田 馬は賢くて繊細。乗りが緊張して余計な力が入ると、それが馬に伝わってしまうんです。本番はどうしても緊張するけど、「乗りは選ばれし

それぞれの役割を教えてください

ここ、毛呂山。わざわざ遠方から足を運ぶ方も大勢いらっしゃるし、観た人は皆さん感動したと言ってくれるんです。

者」という誇りを持って堂々とやり遂げたいです。

入曾 『殿様』は自分との闘い。そういう意味で孤独だね。しつかり支えなければと身が引き締まりますね。

毛呂山の流鏑馬に思うことは

櫻井 毎年、地域の人々も楽しみにしてくれていると実感しています。祭馬となる馬が稽古始めにやってくると、近所の人や保育園児が集まってきてエサをあげたり、なでたり……。そんなほえましい光景が見られるんですよ。

下田 流鏑馬の乗りはけっこういいので学校でも話題になります！

入曾 伝統の祭事を続けていくことが大変な時代だとも思うけれど、無事に終わってみたいとも代わりたい達成感や充実感を味わえるね。町全体に一体感も生まれて。



つなぐ 伝統を繋ぐ

平安時代から続く出雲伊波比神社の流鏑馬。毛呂山の人々によって代々伝統が守られ、現代まで繋がる壮大な歴史を持つ一大行事です。本番前の稽古終わりに、毛呂山の流鏑馬で重要な役割を担う御三方へ、伝統を未来に繋ぐことへの思いをうかがいました。

Yabusame of Izumo Iwabi-jinja Shrine, which has been performed since the Heian period, is a major event with a magnificent history that has been passed down from generation to generation by the people of Moryama and continues to this day. In this discussion, we asked the three people who play an important role in the Yabusame of Moryama about their thoughts on passing on the tradition to the future.

毛呂山の流鏑馬

毎年、春と秋に奉納される毛呂山の流鏑馬。起源は平安時代後期に源義家が奥州平定の際、臥龍山八幡宮に奉納したのははじまりといわれており、その歴史は960有余年にも及びます。特に秋の流鏑馬は、1か月以上の準備期間を経て、「夕刻」といわれる本祭りに臨みます。射手は「乗り子」と呼ばれる13歳前後の3人の少年が務め、大勢の見物客が見守る中、祭馬にまたがって矢を射り、華麗な馬上芸を披露します。

今年も流鏑馬の時期が近づいてきましたね！

下田 乗りを務めるのは昨年に続いて今年で2回目。馬に乗る練習は半年ほど前から始まっていて、今日は神社の馬場で稽古をしていました。本番が近づいてきて緊張感も少しずつ高まっています。

入曾 元々、馬に乗った経験がほぼない子が本番では馬上から弓を放ったり、いろいろな馬上芸を披露するわけだから、相当なブレッシャーだね。本場にすこいよ。

櫻井 子どもが射手を務める流鏑馬は全国でも2箇所しかなくて、その一つが

毛呂山町合併70周年記念 特別座談会



口取り 櫻井 正徳さん 乗子 下田 恵生さん 矢取り 入曾 成雄さん

毛呂山の特産品は

ゆずだけじゃない！

イチゴ

町内ではイチゴ狩りが楽しめる
ところがたくさんあります。さ
まざまな品種を栽培しています
ので食べ比べをしてみてください！

ブルーベリー

摘み立ての完熟ブルーベリーは
驚くほど甘みたっぷり。有機肥
料で育てたブルーベリーをお腹
いっぱい味わって♪

サクランボ

果物の中でも高級品といわれる
サクランボ。雨よけハウスで食
べ放題を満喫できます。

たまご

農林大臣賞を2回も受賞するな
ど評価が高くブランド化され
ている毛呂山の卵。やや赤味を帯
びた黄身は高く盛り上がり、濃
厚な味わいがあります。

もろっこうどん

地場産モロヘイヤを麺に練り込
みました。ネバネバでうどんを
ツルツル、もちもちとした食感
です。夏バテ防止にぴったり！

ゆず香る毛呂山みやげ

ゆずサブレ



桂木ゆずの厚皮を生地に練りこんで仕上げまし
た。ゆずの香りがたまたま優しい味のサブレと
なっております。パッケージには「もちろくん」も
印刷され、お子様にも人気の商品です。

桂木の真珠



白あんにはゆず酒とゆ
ずの皮を混ぜ、ホウ
トキョコでコー
ティングしたカス
テラ生地で包みました。

ゆずジュース



桂木ゆずの豊かな香りを詰め込
んで作ったバリエーションに
富んだジュース。中でもダントツ
の1番人気は「柚子の贅沢」です。

ゆずジャム



砂糖と水とゆずだけで丁寧に作ってい
ます。お湯で溶かして飲むと、味と香りを楽
しみながら身体が温まるのでおススメ！
ゆずを種ごとすべて使用し、食べやすく仕
上げた「種ごと柚子」もどうぞ。

ゆずのお酒



桂木ゆずをふんだんに使用したお酒で
す。穏やかな酸味と優しい甘さを引き出
し、さわやかなゆずの香りをお楽しみ
いただけます。ゆず香るクラフトビールは
自然なゆずのはろ苦さを感じます。

里山の恵み

ゆずの栽培をはじめ数々の特産品が毛呂山の地でつくられます。日本最古の産地といわれる桂木ゆずを守り伝える人
や、個性豊かで香り高い毛呂山みやげ。そこから豊かな自然と共に暮らしてきた人々とその風景に思いをはせます。

A number of specialty products are produced in the Moroyama area, including yuzu. Katsuraki yuzu is a unique and fragrant souvenir that has been passed down by the people who have preserved the oldest yuzu production area in Japan. It makes you think of the people who have lived with the rich nature there, and the scenery.

ゆず果汁とゆずボン酢



桂木ゆずは成分が濃縮された味の濃い
ゆずです。そんな「桂木ゆず」100%の
搾りた果汁です。そのゆず果汁を加
えた味付けは、そのままサラダや
鍋のつけ汁、冷奴、焼魚など、いろ
んなメニューにお使い頂けます。

エッグバウム
(柚子クリーム入り)

さっぱり、さわやか、いい香
りゆずクリームをバウム
クーヘンに詰めました！

ゆず味噌とゆず巻き



ゆずを活用したゆず味噌は、味噌にゆずの
皮や果汁を加えた万能調味料。
ゆず巻きは、大根でゆずの皮を巻いて、甘
酢に漬けた郷土料理。秋の祭りや正月には
欠かせない一品です。

特別インタビュー

桂木 ゆず

『喜代美園』

池辺 幸子さん



Profile

桂木ゆずの生産・商品開発・販売・体験観光を
手がける『喜代美園』の代表。
祖母の代から続くゆず園を引き継ぐ形で事業を
展開。美味しいゆずを食す喜びと、収穫体験で
自然に触れる楽しさを伝えて、ふるさと毛呂山
の魅力を県内外へ向け発信している。
人やコミュニティが好きで、「人を巻き込む力」
が自身の強みである。

桂木ゆずの歴史

日本最古のゆずの産地として知られる毛呂山町。
古くは江戸時代に瀬野入村（現在の瀬ノ入地区）
で産出されたとの記録が残っています。この地区
で栽培されたゆずは、昭和初期に「桂木ゆず」の
銘柄で東京市場へ出荷。以降、それまで盛んだった養
蚕からゆず栽培へと舵を切る
生産者が増え、昭和30
年代には全国有数のゆずの
産地へと発展しました。



桂木ゆずの生産と商品開発、体
験観光までを手がける若手生産
農家の池辺幸子さんにお話を伺
いました。

桂木ゆずに関わるきっかけは？



大学卒業後、20年近く東京で働
いていたのですが、コロナ禍を
きっかけに
毛呂山
へリター
ン。実家
のゆず畑
で手伝い
をするう

桂木ゆずの魅力は？



ゆずの旬は
冬。当然、収
穫体験は11月
から12月いっ
ぱいの期間限
定になってしま
います。そこ
で考えたのが、1年中桂木ゆずを楽
しめる仕組みづくり。ゆずはそ
のまま食べることが少ないので、
もっと気軽に食べられるものを
食卓へ届けたいと思ってジャム
やぼん酢といった加工品を手が
けています。桂木ゆずは香り高
く、果汁が濃いのが特徴なので、
味覚や嗅覚から、その魅力を感じ
てもらえるような商品づくりを
心がけています。

ゆずを生産することは、かなり
手間暇がかかりますし体力勝負
なところもあります。だからこ
そ、商品が完成した時の喜びもひ
としお。それと同時に、桂木ゆず

今後挑戦したいことは？

空き家を活用してカフェを併
設することが目標です。お客様
が収穫したゆずをその場で絞っ
てジュースにしたり、ジャム作り
のワークショップをしたり。
桂木ゆずを
味わい尽く
してもらえ
る場所を創
りたいで
す。毛呂山
は都心から
のアクセスもよいので、気軽に遊
びに来てもらい地域活性にも繋
がってほしいです。そう！実
は今年、SNSを介して、なんと
ドイツからも収穫体験のお客様
をお招きすることができまし
た！世界と繋がるSNSの可能
性。夢は世界に！です（笑）



お客様と分かち合う幸福感が、
今の私の原動力となってしてく
れています。これからも感謝を忘れ
ず、尊敬する先輩に学び、桂木ゆ
ずと共に進化していきます！



鎌北湖の桜

【3月下旬～4月上旬】

花見の名所としても知られており、湖面に映る桜が美しい。夏になると新緑が青々と茂り爽やかです。



演者 斎藤 亜津香さん

私と毛呂山の春

春の訪れを鎌北湖で感じる

毛呂山町は、春になると自然が一層美しく感じられます。特に鎌北湖の周りは桜が咲き誇り、散歩するにはぴったりのスポットです。山々も新緑に包まれ、ハイキングも気持ちよく楽しめます。穏やかな風が吹く中で、春の自然をのんびり感じられるのが毛呂山町の魅力です。

滝ノ入ローズガーデン

【5月中～下旬、10月中～下旬】

静かな山間に広がり、バラと里山の風景とが調和した癒しの空間。見頃は5月と10月で、毎年2回のバラまつりが行われます。



箕和田湖 こぶしの花

【3月頃】



四季彩景

豊かな自然に囲まれた毛呂山町の1年は様々な名所や催しで賑やか。町全体が美しく華やかな彩りを纏います。人々が集い溢れる活気は、その彩りにさらなる色を加えるのです。

shikisaikai
The year in Moroyama Town, surrounded by rich nature, is bustling with various famous places and events. The whole town is beautifully and brilliantly colored. The vitality of people gathering and overflowing adds even more color to that color.

宿谷の滝

落差12メートル。苔むした岩壁に囲まれ流れ落ちる滝は、真夏でも暑さを忘れるほど涼しい。



総合公園の花蓮

【7月上旬～8月中旬頃】



桂木観音のあじさい

【6月頃】



私と毛呂山の夏



原 雅さん
一木さん
親子

ホテル観賞は一生の思い出に

今年の夏、子どもと一緒に町内の川でホテルを見ることができました。正直言って、こんなにたくさんのホテルが見られるとは思っていませんでした。川のほとりに広がる光の点滅に、子どもも私も、その幻想的な景色に心を奪われました。夜風に吹かれながらのひときは、日常の喧騒を忘れさせてくれる貴重な時間でした。地元こんなに素敵な場所があったことを再発見できたことが、本当に嬉しかったです。

毛呂山のホテル



ゆずの里オートキャンプ場

Summer

春の流鏝馬

【3月上旬】

6歳以下の幼児が乗り子となるのが春の流鏝馬。武者人形のような愛らしい姿に人々の歓声が上がります。



毛呂本郷夏祭り

【7月中旬】

夜の闇の中、幻想的に光る山車の引き回しが最大の見どころ。毛呂山の盛夏を告げる伝統的なお祭りのひとときです。



Autumn



私と
毛呂山の
秋冬

市川
正子さん
と夫 瑞樹

健康づくりには最適です！

毛呂山町を歩いてみると歴史や文化など新たな発見があります。
鎌北湖は、春には湖のほとりで咲き誇る桜が、秋には紅葉の美しい景色が楽しめます。草花を目で楽しみ、香りを感じ、鳥や虫の声に季節の移り変わりを感じます。ウォーキングを続けることで体力に自信が持てるようにもなりました。

鎌北湖の紅葉

【11月中旬～12月上旬】

獅子舞奉納 【10月上旬～中旬】

スポーツフェスタもろやま 【10月上旬】

産業まつり

【11月中旬】

町内の商工業者や農業団体等が集まり、お得な商品がたくさん並ぶ秋のお祭り。ステージ発表もあり、大勢の人で賑わう一大イベントです。

ゆずの里ウォーク

【11月下旬】

黄金色に実ったゆず畑の風景を眺めながら、ハイキングを楽しむ人気行事です。

Winter

鎌北湖の雪景色



おすすめ③モデルコース

① ぶらり歴史さんぽコース

約2.3km / 約35分

① 大類グラウンド

約7分

② 大類ソフトボールパーク

約5分

③ 大類館

約5分

④ 歴史民俗資料館

約3分

⑤ 鎌倉街道上道

約15分

⑥ 大類グラウンド

② 気軽にまちなか散策コース

約3.5km / 約50分

① 毛呂山町役場

約3分

② 伴六遺跡公園

約22分

③ 武蔵野公園

約5分

④ 武州長瀬駅

約20分

⑤ 毛呂山町役場

③ 花と緑の自然満喫コース

約4.3km / 約1時間5分

① 総合公園体育館

約2分

② 総合公園グラウンド

約3分

③ かまきた直売所

約30分

④ 鎌北湖

約30分

⑤ 総合公園体育館

すべての世代が健康で幸せに暮らすことを基本理念に掲げる毛呂山町、四季折々の変化を楽しんだり、寄り道したりと楽しみながら健康づくりをしていきましょう。

四季折々の毛呂山を歩こう

MAP



介護施設は10事業所
健康に長生きしたいね



スポーツ施設は8か所
幅広い世代が
利用できる



医療機関は29か所
もしもの時も安心



人口10万人当たり
医師・看護師数
県内第1位!



令和6年は321人が
二十歳となりました
(9.6月現在)



6か所の学童保育
放課後も楽しく
過ごせる!



保育所は
8か所あるよ



ずっと輝く 毛呂山ぐらし

毛呂山町は人の誕生から老後まで切れ目のないライフステージをサポート。子育て支援、教育、医療、福祉などが充実し、住民一人ひとり、誰もが安心して暮らせる町を目指しています。

《健康づくり》

埼玉医科大学グループと連携した健康ウォーキング事業の実施や各種スポーツなど運動機会を提供することで、住民の健康増進を図ります。気軽に運動が続けられるよう、ウォーキング環境の整備や各種軽スポーツ大会・教室等を開催し、身体を動かす楽しさやスポーツに親しむ機会を創出します。また、生活習慣病予防や介護予防事業により、元気な高齢者を増やす取り組みを進め、健康寿命の延伸を目指します。



おもいを使って楽しながら介護予防に取り組む「ゆずっこ元気体操」



健康生きがいがつくりをサポート、明るく開放的な雰囲気のハビネス館

町の歴史や民俗について分かりやすく解説する講座



次々と素晴らしいパフォーマンスが披露された「毛呂山芸術音楽祭」

《生きがいがづくり》

健康寿命の延伸には身体だけでなく、生きる楽しさがあり、日々が充実していることによる心の健康維持をサポートしていくことが重要です。そのために、人と人のつながりや地域コミュニティの活性化を図る取り組みを進めています。また、生涯学習事業の充実や高齢者の通いの場の確保などの取り組みにより、世代や障害の有無に関わらず、住民一人ひとりが生きがいをもち、心豊かに暮らせるまちづくりを進めます。

《ひとづくり》

住民一人ひとりが健康で心の豊かさや幸せを実感できるよう、あらゆる機会を通じて健康意識の啓発を進めます。また、少子化対策の一環として、妊娠・出産・子育て、それぞれに応じた子育て支援の実施により、子どもたちの健やかな成長を支えます。そして未来を担う子どもたちに対し、健康についての理解を深め、思いやりや生きる力とともに、ふるさとである毛呂山町への郷土愛を深め、将来の定住促進を目指します。



小学3年生以上を対象としたプログラミング教室

「健康づくりのまち もろやま」は住民一人ひとりが健康で幸せに暮らせるまちづくりを目指す取り組みです。「健康」という言葉は、「健康」と「幸せ」の両方が備わった子どもから高齢者まで世代や障害の有無に関わらず、生きがいを感得して自分らしく日常生活を送ることができる状態と定義しています。そこで、毛呂山町では「健康づくりのまち もろやま」の実現に向け、三つの基本方針（健康づくり・生きがいがづくり・ひとづくり）を示しています。これらの基本方針には、これまで町が力を入れてきた医療・福祉・子育て・教育での取り組みをさらに発展させ、より確実に健康づくりへつなげていくことが求められています。さらに基本方針に基づく事業は、町の強みである埼玉医科大学グループやハビネス館との連携により推進を図ります。町だけでなく、医療・福祉施設にも協力をおおぎ、医学的知見を活かした効率的な取り組みを実施していきます。毛呂山町は様々な団体との連携や住民との協働により、健康づくりのまちの達成に向けて邁進しています。また、住民一人ひとりが健康に対する意識を持ち、行動を変えていくことが必要不可欠で、町一丸となって実現を目指していきます。

"Health and Wellness Town, Moroyama" is an initiative that aims to create a town where each and every resident can live a health and wellness life. Moroyama Town has set out three basic policies (health promotion, creating a sense of purpose in life, and life resource development) with the aim of creating Health and Wellness Town, Moroyama. These basic policies call for the further development of the initiatives the town has been focusing on in the areas of health care, welfare, childcare, and education, and for these to be linked more securely to the creation of health and wellness. Furthermore, projects based on these basic policies will be promoted in cooperation with the Saitama Medical University Group, and Moroyama Town. It is also essential that each resident has an awareness of health and changes their behavior.

「健康づくりのまち もろやま」をめざして

行政

町では第六次毛呂山町総合振興計画に基づき、「みんなでつくる 住みやすいまち 住み続けたいまち」を将来像に掲げ、子どもたちが健やかに育ち、すべての世代が健康で安全に安心して暮らせる賑わいと活力のあるまちを目指しています。住民と行政による協働でまちづくりをすすめる、積極的な情報発信等に努め、創意と工夫を凝らした行政運営に邁進していきます。また、DXの推進により、効率的な行政運営を行い、住民満足度の向上を図ります。



毛呂山町役場

議会

毛呂山町議会は4年に1度の選挙で選出された、町民の代表である14人の議員で構成されています。年4回開かれる定例会議と必要に応じて招集される臨時議会によって、町政運営の方針や予算、条例の制定・改廃などの案件を審議。一町政への提言・提案を行うなど、常に町民の声に耳を傾け、民意を反映させた方針を決定します。

毛呂山町議会



